福澤諭吉著

帳合之法

二編

三

帳合之法 卷之三

譯者附言

第二編ノ本式ニ至テハ諸帳面並ニ書付ノ數モ次第ニ增シ其名目ニ付キ混雜ヲ生ズ可ク或ハ橫文ヲ讀ム人ハ原書ヲ見テ獨リ不審ヲ質スコトモアル可ケレバ此譯書中ニハ此原語ヲ斯ク譯セシトノコトヲ知ラシメテ學者ノ便利ニ供ヘンガタメ其譯例ヲ示スコト左ノ如シ

帳合	ブックキイピング
帳面	ブック

福澤諭吉譯

略式　シングル・エントリ
本式　ドップル・エントリ　或ハ単記ト譯スモヨシ
借　デビト
貸　ケレヂト
取引　トランスアクション
商賣　ビジニス　或ハ復記ト譯スモヨシ
勘定　エッカヲント
差引又ハ拭ケ　ヲフ又・エッカヲント
元金　カピタル
利足　インテレスト

元入　インウェストメント
日記帳　デイブック
大帳　レヂヤル
金銀出入帳　ケシブック
賣帳　セイルブック
清書帳　ジョルナル
仕入帳　インウェントリ
送狀　インボイス
手形帳　ビルブック
手形　ビル又ハ「ノヲト」

商賣品	メルチャンダイズ
平均又ハ残金	バランス
平均改	トライヤル・バランス
元手又ハ手當	レソウルス
拂口又ハ引負	ライエビリチ
利益	ゲエン
損亡	ロス
平等付合	エクヰリブリュヘ
平均表	バランスシイト
為替又ハ兩替	エキスチャンジ

帳合之法卷之三

第二編本式

惣論

帳合ノ書式ヲ以テ勘定ヲ為スモ尚コレヲ法ト名ク然バ則チ本式ノ帳合ハ學問ニ非ラズシテ何ソヤ真ニコレヲ學問ト名ク可キナリ書式ニテモ商賣ノ有様ヲ明ニスルニハ申分ナキ法ナレド本式ノ功能ハ商ニ商賣ノ有様ヲ明ニシテ其正シキ證據ヲ示スノミナラズ精密ナル算法ヲ以テ利益ト損亡トノ由テ来ル所ノ道筋ヲ顯ハスモノ

福澤諭吉　譯

ナリ(二)畧式ト本式ト相異ナル所ハ專ラ此一条ニ在リ且畧式ニ於テハ事ノ始末ヲ見ルニ大帳金銀出入帳手形帳或ハ其他ノ小帳ヲ合セテ惣勘定ヲ為スヲナレ(三)本式ニ於テハ元手モ拂口モ利益モ損亡モ悉皆大帳ノ一冊ニ就テ其始末ヲ見ル可シ是亦両式相異ナル所ナリ

畧式ト本式トノ區別ヲ明ニ知ラシニハ初編ノ第三式ト第二編ノ第三式トヲ比較シテコレヲ見ル可シ商賣ノ取引ハ両式共ニ同様ナルユエ帳合ノ區別ヲ見ルヲ甚タ易シ

(四)本式ノ名ハ畧式ノ反對ニテ本式ニハ一箇条ノ取引ヲ二重ニモ三重ニモ大帳ヘ記スユエ斯ク名クタルナリ(五)此帳合ノ仕方ハ大帳ノ面ニ同シ借貸ヲ顯ハス趣向ナリ即チ帳面ノ借ノ方ヘ二重ニモ三重ニモ記シタル同シ金高ヲ貸ノ方ヘモ二重ニモ三重ニモ記スユエ(六)此法ニ由テ明ニ帳合ノ正否ヲ糺ス可キナリ

同シ高ノ借貸ヲ以テ互ニ相平均スルノ法ハ本式ノ大趣意ニテ勘定ニ巧ナル商人ハコレヲ實地ニ施シテ其功能最モ美ナリト雖モ世ノ人或ハコレヲ誹リ此法ハ奇怪ニシテ混雑シ易ク未熟ノ人ノ心ヲ惑ハシテ却テ帳合ノ用

ヲ達スルニ足ラズト云フ者アリ蓋シ此愚論ハ取ルニ足ラズ他日若シ此輩ノ人ヲシテ聊カ知見アラシメナバ此帳合ノ法ニ暗シトテ必ズ自カラ赤面スルコアル可シ尤若シ本式ノ法ノ良否ヲ疑フ者アラバ唯左ノ如クコレニ答ヘンノミ本式ノ法ノ内ニハ畧式ノ功用ヲ盡ク備ヘテ一トシテコレヲ洩ラスコトナク略式ノ功用ハ一トシテ本式ニ異ナルコトナシ唯本式ハ略式ノ用ヲ更ニ十分ニ成スモノナリト余輩ノ見ル所ニテ此両式ノ相違ヲ云ヘバ略式ハ元手ト拂ロトヲ記スノミナレヒ本式ハ元手ト拂ロトヲ示シテ兼テ又利益ト損亡トノ始末ヲモ記セリ是即チ本式ノ大眼目ナレバ事ニ念ヲ入ルヽ人ハ必ズ此法ヲ用ヒザルヲ得ズコノ法ニ由レバ諸商賣ノ利不利ヲ互ニ比較シテ利アル方ニ従フヲ得ベク且畧式ニ於テハ書損又ハ勘定違ヲ其マヽニ看過スコトアレヒ本式ニハ此患極テ少キナリ

本式ニ於テモ勘定ノ主タル帳面ハ大帳ナリ其趣両式相異ナラズト雖ヒ畧式ノ大帳ニハ他人トノ取引ヲ記スノミニテ本式ノ大帳ニハ交易ヲ行フ毎ニ其交易ノ種類ニ損亡ト利益トノ始末ヲ記セリ故ニ本式ノ大帳ハ借貸ノ人トノ勘定ヲ示スノミナラズ

商賣ニ取扱フ所ノ品物並ニ損益ノ生ズル原因マデモ悉皆コレヲ相手ニ立テ、其勘定ヲ為スモノナリ

十四 世間一般ノ仕来ニテ本式ニ於テモ金銀出入帳手形帳ヲ用ルヿ器式ノ如クスト雖モ金銀ト手形トノ事ヲ實ニ示スモノハ大帳ノ勘定ナリ

十五 本式ニ主トシテ用ル所ノ帳面ヲ三様ニ分ツ日記帳清書帳大帳是ナリ

十六 時トシテハ日記帳ト清書帳トヲ一帳ニ合シテ兩用ヲ兼ルヿモアリ

日記帳ノ事

十七 日記帳ハ帳合ノ元帳ニシテ取引ノ手續ヲ其順序日附ニ従テ記スモノナリ

十八 其書方ハ簡易ニシテ解シ易ク少シモ不分明ノヿアル可ラズ或ハ余計ノ文字ヲ用ヒテ讀ム者ノ心ヲ惑ハシ或ハ文句不足シテ誤解ヲ生ズルナド何レモ宜シカラザルヿナリ

清書帳ノ事

十九 清書帳ハコレヲ日記帳ニ合セズシテ別ニ用ル氏ハ日記帳ト大帳トノ間ノ帳面ナリ其用ハ都テ取引ヲ大帳ヘ記ス前ニ其借貸ヲ惣ニ定ルタメノモノナリ

二十 斯ク取引ノ借貸ヲ定ルヿヲ名ケテ清書ト云フ

大帳ノ事

二十二 大帳ハ始末ノ帳面ナリコレヲ帳合ノ仕上ケ帳ト云フ可シ 二十三 詳ニ商賣ノ惣勘定ヲ為スタメニ入用ナル事柄ハ悉皆大帳ノ面ニ見ハレ現在ノ元手ト拂ロトヲ示スノミナラズ夫々ノ取引ニ就キ損益アリシヿマデモ此帳面ニ由テ見ル可シ 二十四 斯ノ如ク他ノ帳面ノ扣ヲ集テ大帳ニ記スヿヲ名ケテ寫シト云フ

左ニ此三帳ノ例ヲ擧テ一箇条ノ取引ニ就キ各其扣ノ体裁ヲ示スガ故ニコレニ由テ明ニ其用法ヲ知ル可シ

明治六年

日記帳

一月一日

東京

山城屋ヨリ買代掛ケ	麦粉　又百俵	二日　四一〇、〇〇	五、〇〇〇
大和屋ヘ賣代現金	麦粉　百俵	四一〇、五〇〇	一、〇五〇
鳥取ノ相手		日附	圓ノ位
			銭ノ位

明治六年

清書帳

一月一日

一丁	二丁	三丁	一丁	大帳ノ丁數
品物	山城屋へ	正金	品物へ	
借		借		大帳ノ面ニ借ルトナリ貸ルトナリ
五、〇〇〇		一、〇五〇		圓ノ位
				錢ノ位
	五、〇〇〇	一、〇五〇		圓ノ位
				錢ノ位

二日

大帳

一丁

一月	一日	一丁	五、〇〇〇
借	山城屋へ	清書帳ノ丁數	
	借ニナリタル訳		
品物	一月	一日	正金ニテ
	貸ニナリタル訳		
	清書帳ノ丁數		
貸	一、〇五〇		

二丁

借　山城屋　貸

一月　一日　品物ニテ　一丁　五、〇〇〇

三丁

借　正金　貸

一月　二日　品物ヘ　一丁　一、〇五〇

（譯者註）惣論ニモ云ヘル如ク本式ノ法ハ一箇条ノ取引ニ付同シ金ノ高ヲ二重ニモ三重ニモ大帳ニ記シ互ニ平均シテ其始末ヲ見ル趣向ナルユヱ此大帳ニアル借貸ヲ日本流ノ考ニテ唯他人ヘ借貸トノミ思フ可ラス商賣ノ品物モ正金モ一人ノ人ノ如クニ見タルモノユヱ假ニコノ品物ノ二字ヲ品物預リ人ト解シ正金ノ二字ヲ金箱預リ人ト解シタラバ初學ノ人ニ合点シ易スカル可シ先ツ大帳ノ面ニテ品物ガ山城屋ヘ五千圓借トハ品物預リ人ガ山城屋ヨリ掛ケニテ五千圓ノ商賣品ヲ買ヒ未タ其代金ヲ拂ハザルユヱ借ナリ正金ニテ

千零五十圓貸トハ現金ニテ此高ノ品ヲ大和屋ヘ賣リ其代金ヲ金箱預リ人ノ手ニ渡シタルユヱ貸ナリ又山城屋ガ品物ニテ五千圓貸トハ此高ノ品物ヲ拂ケニテ賣渡シ未タ代金ヲ受取ラザルユヱ貸ナリ又正金ガ品物ヘ千零五十圓借トハ金箱預リ人ガ品物預リ人ヨリ此高ヲ受取テ金箱ヘ納メタルユヱ借ナリ本式ノ帳合ヲ學ブ者ハ早合点ノタメ假ニ此考ニテ帳面ヲ解ス可シ尚詳ナルハ後ニ記ス貯ノ例ヲ見ル可シ

初ノ日記帳ノ例ニ山城屋ヨリ買代拂ケトハ或ハ差引ト記スヒ差支ナシ

勘定ノ學問

商賣ニ必用ナルモノハ其順序手續ヲ記ス帳面ナリトハ雖モ勘定ノ學問ノ主トスル貯ハ大帳ノ面ニテ取引ノ始末ヲ明ニスルニ在リ此一義本式ノ帳合ニ於テ最モ然リトス本式ニ用ル大帳ハ何レノ取引ヲモ記シテ洩ラスナク何時ニテモ商賣ノ有様ヲ明ニ示スモノナリ

大帳ニアルロ々勘定ノ箇条ハ其一箇条毎ニ出入ノ事実ヲ記シ或ハ元手或ハ拂口或ハ利益或ハ損亡ニノ四者ノ内ノ一ヲ示シテ其始末ヲ明ニスルノ法ハ勘定ノ借ノ方ト貸ノ方トヲ照合セテ

其差ヲ見ルノミ其例左ノ如シ

借 入金ナリ 正金 出金ナリ 貸

一月	一日	元入ヘ	五、〇〇〇
	十五	品物ヘ	一、五〇〇
	三十	同所	五、〇〇〇
		メ円一一、五〇〇	
		入金合テ	円一一、五〇〇
		出金合テ	四、五〇〇
		有金即チ元手 二十八	七、〇〇〇

一月	一日	品物ニテ	二、五〇〇
	十日	同所	一、二〇〇
	三十	伊賀屋ニテ	五〇〇
	ク	雑費ニテ	三〇〇
		メ円四、五〇〇	

借 元代ナリ 品物 賣上ヶ代ナリ 貸

一月	一日	正金ヘ	二、五〇〇
	十日	同所	一、二〇〇
	十四	伊賀屋ヘ	一、五〇〇
		メ円五二〇〇	
		賣上ヶ代合テ	円六、五〇〇
		仕入元代合テ	五、二〇〇
		賣徳即チ利益 二十九	一、三〇〇

一月	十五	正金ニテ	一、五〇〇
	三十	同所	五、〇〇〇
		メ円六、五〇〇	

借	伊賀屋ガ此方ヘ借	伊賀屋	此方ガ伊賀屋ヘ借	貸
一月十三	正金ヘ	五〇〇	一月十四 品物ニテ	一、五〇〇
	此方ガ伊賀屋ヘ借			四一、五〇〇
	伊賀屋ガ此方ヘ借			五〇〇
	伊賀屋ヘ拂フ可キ差引残金即チ拂口三十			一、〇〇〇

借	雜費	貸
一月十三	正金ヘ	三〇〇
	雜費ノ高即チ損亡三十	四三〇〇

右ノ例ニ擧ケタル勘定書ノ口々ハ都テ大帳ニ記ス可キ箇条ヲ示シテ唯元入金ノ一箇条ヲ省キタルノミ元入金ノ箇条ハ即チコノ帳面ノ主人タル可キ人ノ勘定ナレバ若シコノ箇条ヲ大帳ノ面ニ擧テ一口ノ勘定ヲ立ルトキハコノ箇条ニハ商賣ノ初ニ用ヒタル正味元入金ノ高ヲ記シテ借貸ノ勘定ヲ為ス可キ筈ノモノナリ前ノ例ニ示ス諸口勘定ノ内ニテ正金ノ箇条ノ初筆ニ正味ノ元入ハ五千圓トアルユヱ今コノ次第ニ由テ左ノ如ク差引ヲ為セバ其差引ノ法ハ簡畧ナレ氏勘定學ノ主トスル所ノ大趣意ハコレニ由テ十分ニ知ル可キナリ

元手	有金	四七、〇〇〇	
拂口	伊賀屋ヨリ借	一、〇〇〇	
	正味元手即チ現在ノ身代		六、〇〇〇
利益	品物ニテ	四一、三〇〇	
損亡	雜費ニテ	二〇〇	
	正味ノ利益	一、〇〇〇	
	初ノ元入ノ高	五、〇〇〇	
	現在ノ身代		六、〇〇

前ニ説キ明ニセシ趣ヲ以テ一般ニ左ノ事柄ヲ合点ス可キナリ

第一　勘定[三十二]トハ或ハ人或ハ品物或ハ事柄ニ関ルヿヲ記シテ明ニ其始末ヲ示スモノナリ

第二　勘定[三十三]書ハ必ズ二段ニ分テ一方ヲ借ト名ケ一方ヲ貸ト名ケ両方共ニ別々ノ取引ヲ記シテ其始末ヲ見ハシ両方ノ金高ヲ照合セタル差ニ由テ一般ニ商賣ノ有様ヲ知リ其大切ナル始末ヲ分ルヤウニシタルモノナリ

第三　勘定[三十四]書ハロレヲ分テ二様ニ為ス可シ其一ハ元手ト拂ロトヲ示シ其二ハ利益ト損亡トヲ示スナリ

第四　商賣（二十九）ノ正味ノ損益ハ大帳ノ面ニテ利益ト損亡トヲ示ス勘定書ノ箇条ニテ明ナリト雖モ尚又元手ト拂口トヲ示ス勘定書ノ一般ノ始末ヲ見レバ其損益ハ正シク身代ノ増減ニ符合スルユヱ此増減ニ由テ損益ノ多少ヲ知ル可キナリ

借（三十六）ト貸トノ事

借ト貸ノ字ヲヨク解シテ其字ノ義ヲ明ニ定ルハ勘定學ノ一大難事ニテコレガタメニハ勘定ノ學者先生モ常ニ困却セリ或ハ名譽ヲ好ム先生ハ其才智ヲ以テ世ニ誇ラントシ帳合清書ノ名法ヲ發明シタリトテ勘定學ノ事ニ就キ議論ノ著述ヲ企テ此法ヲ用レバ勘定學教授ノ風ヲ一變シテ萬代不易世間ノ多クタメニ易キ帳合ノ道ヲ開ク可シト云フ者アリ學問ニ苦シム生徒ハコノ説ヲ聞テ其詳ナルヲ尋レバ先生ノ議論モ亦別段ニ奇ナルニ非ズ唯借ルト借ラルヽトノ意味ノ其論ニ云ク借トアレバ悉皆汝ニ借リタルモノナリ貸トアレバ悉皆汝ノ借リタルモノナリ故ニ汝ガ他ヘ引負ヲスルモノヲ借トシ汝ガ身ニ引負ト為ルモノヲ貸ト為スト可シト又一種ノ學者先生ハ前ノ説ト相反シ借モ貸モ其字義ニ於テ借ト名ケ貸ト名ル財ノモ

ノハ實ニ借ニモ非ズ亦賃ニモ非ズ其場所ニ從テ各其意味ヲ異ニセリト云フ者アリ（三十七）右ノ如ク勘定學ノ義ヲ說ク法ヲ異ニスルノミニテ其學問ノ趣意ニ從テコレヲ勘定ノ實事ニ用ルニ至テハ此說ノ者モ彼ノ說ノ者モ相異ナルコト能ハザルナリ

人々ノ議論同ジカラズシテ各其方向ヲ異ニスト雖モヨク此學問ノ趣意ヲ解シテ自由ニコレヲ取扱フ者ハ即チ貴ム可キ人物ナレバ我輩ニ於テ固ヨリコレヲ輕蔑ス可キニ非ズ或ハ又其說ヲ排シテ我輩ノ說ヲ立ントスルノ意モアラザルナリ元來學義ヲ說クノ良法如何トテコレヲ詮索スルハ唯學問ノ議論ニシテ事實ニ關係スルコトニ非ズ勘定學ヲ教ル人ノ主トス可キ所ハ學義ヲ說クノ巧拙ニ在ラズシテ學義ヲ知テヨクコレヲ活用スルニ在ルナリ

學者ヨク左ノ七箇条ノ規則ニ熟シテコレヲ忘ルヽコトナキコトナカル可シ

規則

第一則主人

（三十八）商賣ニ元入金ヲ出シタル主人ハ其元入ノ金高ト商賣ノ

利益ノ高トヲ以テ貸ト為シ主人ノ引請タル拂口ト、商賣ノ高ヨリ引去タル金ト、引請タル損亡トヲ以テ借ト為スナリ

第二則正金

三十九 正金ノ勘定ハ請取タル高ヲ借ト為シ拂出シタル高ヲ貸ト為スナリ

第三則品物

四十 景氣見込ヲ以テ仕入タル品物ハ仕入元代ヲ以テ借ト為シ其品ノ賣上ケ代ヲ以テ貸ト為スナリ

第四則請取口手形

四十一 請取口手形ノ勘定ハ他人ノ手形、他人引受ノ證文、其外都テ金子引替ノ約条書ヲ此方ヘ請取タルトキニ其書面ノ高ヲ以テ借ト為シコレヲ引替ル欤又ハ他ニ用ルトキハ其高ヲ貸ト為スナリ

第五則拂口手形

四十二 拂口手形ノ勘定ハ此方ノ手形、此方引請ノ證文其外都テ金子引替ノ約条書ヲ出シタルトキニ其書面ノ高ヲ以テ貸ト為シコレヲ引替タルトキハ借ト為スナリ

第六則他人

四十三 バンク其外都テ此方ト取引スル他人ノ勘定ハ其當人ガ

此方へ對シテ引負ト為ル歟或ハ此方ヨリ兎テノ引負ヲ先方へ返シタル片ニ借ト為リ此方ガ先方へ對シテ引負ト為ル歟或ハ先方ヨリ兎テノ引負ヲ此方へ返シタル片ニ貸ト為ルナリ

第七則雜費

四十四 何等ノ名目ニテモ費ス所ノモノハ其費シタル高ヲ以テ借ト為シ何等ノ事柄ニテモ利ヲ得ルモノハ其利ノ高ヲ以テ貸ト為スナリ

定

四十五 商賣ノ元高ハ借ナリ商ヒ高ハ貸ナリ

吟味ノ問題

惣論ノ文

一 本式ノ帳合ハ畧式ヨリモ格別ニシテコレヲ明ニ學問ト名クルハ何故

二 兩式ノ相異ナル所ハ何等ノ箇条ニ在ルヤ

三 其相違ヲ明ニ見ンニハ如何スル可キヤ

四 本式トハ何故ニ名ヲ下ダシタルヤ

五 大帳ノ面ニ記ス趣ハ如何

六 大帳ノ面ニ平均スレバ何等ノ便利アルヤ

七 借貸ヲ平均スル法ニ就キ世ノ人ノ說如何

八　本式ノ良否ヲ疑フ者アラバコレニ答ルヿ如何
センヤ
九　余輩ノ見ル所ニテ此書中両式ノ相違如何
十　商賣人ノ本式ヲ用ルハ何故
十一　本式ニ於テ勘定ノ主タル帳面ハ何レノ帳面ナ
ルヤ
十二　本式ノ大帳ト畧式ノ大帳ト其相違如何
十三　本式ノ大帳ニハ他人トノ勘定ノ外ニ何事ヲ記
スヤ
十四　金銀出入帳ト手形帳トノミニテ金銀ト手形ト
ノ事ヲ記スヤ
十五　本式ニ主トシテ用ル三帳ノ名ハ如何
十六　時トシテ三帳ノ内ノ二帳ヲ一ニ合スルヿアレ
バ何帳ト何帳トヲ合スルヤ
十七　日記帳ニハ何ヲ記スヤ
十八　日記帳ノ書方ハ如何ス可キヤ
十九　清書帳ハ他ノ帳面ニ對シテ何モノナルヤ
二十　其用ハ如何
二十一　借貸ヲ定ルヿヲ何ト名クルヤ
二十二　大帳ハ何モノナルヤ

二十三　大帳ニハ何事ヲ記スヤ
二十四　大帳ニ記スヿヲ何ト名クルヤ
　　勘定ノ學問ノ文
二十五　勘定學ノ主トスル所ハ何事ナルヤ
二十六　大帳ノ口々ノ勘定ハ何モノナルヤ
二十七　其始末ヲ明ニスルノ法ハ如何
二十八　正金ノ勘定ニ借ノ方多ケレバ其差ハ何モノナルヤ
二十九　品物ノ勘定ニ貸ノ方多ケレバ其差ハ何モノナルヤ
三十　他人ノ勘定ニ貸ノ方多ケレバ其差ハ何モノナルヤ
三十一　雜費ノ勘定ニ借ノ方多ケレバ其差ハ何モノナルヤ
三十二　勘定トハ何事ナルヤ
三十三　勘定書ノ体裁ハ如何
三十四　勘定書ハ何様ニ分ツヤ之ヲ分テ何事ヲ示スヤ
三十五　勘定書ノ箇条ニテ見ル可キ正味ノ損益ハ何モノト符合シテ尚其明ナルヲ知ル可キヤ
三十六　勘定學ノ一大難事ハ何事ナルヤ

三十七　本式ノ義ヲ實事ニ施スニ付キ學者各其法ヲ異ニスルヤ

三十八　商賣ノ主人ハ何ヲ借ト為シ何ヲ貸ト為スヤ

三十九　正金ノ勘定ハ何ヲ借ト為シ何ヲ貸ト為スヤ

四十　品物ハ如何

四十一　請取口手形ハ如何

四十二　拂口手形ハ如何

四十三　他人ハ如何

四十四　雜費ハ如何

四十五　借貸ノ定ハ如何

差引書ノ事

差引書トハ取引ノ出来シマヽノ有様ニ従テ其勘定ヲ記シ先方ノ人ヘ對シテ或ハ借ト為リ或ハ貸ト為リテ未タ出入ノ皆濟セザル差引ヲ示スモノナリ扨ケノ賣買ニテ其取引ノ高次第ニ多クナルヤ双方拂方ノ時ヲ平均シテ其過不足ノ差ヲ拂ヒ互ニ利足ノ損亡ヲ蒙ルコトナカランガタメ差引ノ書付ヲ作ラザル可ラズ拂方ノ時ヲ平均スルノ法ハ世間出版ノ筭術書ニ記セルモノモ多ク余輩ノ著述大學用帳合之法ニモ詳ニ示シタリ左ニ記ス差引書ハ其最モ簡畧ナル一例ナリ

丸屋善八板

看引

福澤諭吉

明治六 七月	一日	帳合之法初編	二十四部	六五七之
〃	〃	同二編	十二部	六五七
〃	十二	西洋事情初編	五十部	七五七
〃	十五	同二編	十五部	四一、
八月	十日	同外編	十二部	七五七
〃	〃	大全世界國つくし	十二部	四一、二五七

〃	十五	素本世界國つくし	六十部	五〇七
〃	廿日	窮理図解	六十部	二五七
〃	〃	童蒙教草初編	六十四部	七五七
〃	三十	同二編	百部	三七七五
〃	〃	啓蒙手習之文	三十部	二五七
〃	〃	萬國一覧	六十部	一〇七
〃	〃	改暦辨	六百部	三七三
〃	〃	條約十一國記	二十部	七七五
〃	〃	西洋旅案内	三十部	三七七五
〃	〃	英國議事院談	十部	四四七

〃	十五	三〇		
〃	廿日	一五		
〃	〃	四八		
〃	三十	三七五〇		
〃	〃	七五〇		
〃	〃	六		
〃	〃	一九八		
〃	〃	一五〇		
〃	〃	一一二五		
〃	〃	四四〇		

八月三十	學問のまくめ	五十五部	四七	二	二〇	二八三	〇五
七月十日	正金ニテ	貸		一〇			
〃十五	同			一三五			
八月一日	同			五〇		一九五	
		差引不足				八七	八五

第一式

日記帳、清書帳、大帳ヲ用ヒ清書、惣勘定等ノ法ヲ示ス但シ商賣ハ利益ヲ得タル有様ヲ記スモノナリ

端書

左ニ示ス所ノ第一式ノ例ハ商賣ニ於テ最モ簡畧ナル取引ヲ記スモノニテ其趣意ハ前段七箇条ノ規則ヲ解キ明ニシ學者ヲシテ次第ニ帳合ノ奥義ニ達セシメンガタメ

ノ手引草ナリ都テ取引ハ其事ノ差起リシ順序ニ従テ先ツコレヲ日記帳ニ記ス即チ取引アリノマヽノ記録ナリ然ル後ニコノ記録ヲ清書帳ニ寫シ清書帳ヨリ大帳ニ寫スナリ取引ノ事ヲ清書帳ヘ記スニ付キ心ヲ用ユ可キ箇条第一ハ其取引ノ事ニ關ハル人欤又ハ物ヲ定ル事第二ハ其人又ハ其物ガ取引ノ事ニ關ハル次第柄ヲ分明ニスル事第三ハ既ニ其人モ物モ定マリ其事ニ關ハル次第モ明ナリシ上ハ七箇条ノ規則ニ従テ借貸ノ名目ヲ定ル事ナリ譬ヘバ右ノ日記帳ノ初筆ニ山城屋ヨリ拭ケニテ麥粉千俵買フトアリコノ處ニテ取引ノ事ニ關ハルモノハ山城屋ト麥粉ナリ其事ニ關ハリタル次第柄ヲ云ヘバ此帳面ノ主人ハ山城屋ニ對シテ借ト為リ麥粉ハ其元代ヲ以テ主人ヘコノ借ノ高ヲ引負ハセタルナリ乃チ規則ニ就テコレヲ見レバ第六則ニ他人ノ勘定ハ此方ガ其人ヘ對シテ引負ト為ルヤ貸ナリトアリ又第三則ニ品物ハ其元代ヲ以テ借ト為ストアリ清書ノ体裁ハ借ヲ先ニシテ貸ヲ後ニスルノ法ナルユエ麥粉借六千圓山城屋ヘ六千圓ト記シコレヲ大帳ニ寫スニハ麥粉ト山城屋ト別ニ其勘定ノ坐ヲ設ケ麥粉ヲ借ト為シ山城屋ヲ貸ト為セリ又大帳ノ面ニハ月日ト金高トヲ記スノミニテ事ノ

始末ヲ見ル可キガ故ニ他ノ次第ヲ載ルニ及バズ唯取引ノ目印ノタメニ清書帳ニアル借貸ノ一方ヲ寫シテ之ヲ其呼ニ記スヲ以テ一般ノ通法ト為ス又日記帳ノ上ニアル(レ)ノ相印ハ日記帳ニ記セル事ノ順序ニ従ヒコレヲ清書帳ニ寫取ルヒ直ニ其箇条ノ上ニアル丁數ノ文字ハ清書帳ノ上ニアル丁數ヲ記シ此箇条ハ大帳ノ何丁ニ寫シタリトノ目印ニスルモノナリ又清書帳ノ上ニアル丁數ノ文字ハ清書帳ノ丁數ヲ記シ此箇条ハ大帳ノ何丁ニ寫シ彼ノ箇条ハ何丁ニ寫シタリトノ目印ニスルモノナリ又大帳ノ金高ノ上ニアル丁數ノ文字ハ清書帳ノ丁數ニテコノ金高ノ箇条ハ清書帳ノ何丁ヨリ寫取リシトノ目印ナリ又大帳ノ勘定ハ付ケ損リノ終ニ差置キ其始末ヲ見ルニハ一坐毎ニ借ノ方ニテモ貸ノ方ニテモ白紙ノ廣キ方ニ「ペンシル」(西洋ノ石筆又ポトヽモ云フ)ヲ以テ假ニ出入ノ差引ヲ為シ次テ其詳ナルヲ見ルニハ第四十丁ノ惣勘定ノ法ノ如クスルナリ但シ大帳ノ始末ヲ示スハコノ式ノ趣意ニアラズ其始末ノ十分ナルハ第二式ニ就テ見ル可シ

コノ帳合ヲ學ブ者ハ都テ書中ニ擧ル所ノ吟味試業ヲ經テ一箇条ヲモ洩ラス可ラズ既ニ解サズシテ妄ニ進テ次ノ新式ヲ學バントスルハ學者ノ

悪風固ク禁ズル所ナリ

第一式

明治六年

日記帳

一月一日

東京三田 福澤諭吉

山城屋ヨリ買代掛			
麦粉	千俵	二日	四六、〇〇〇七之
大和屋へ賣代現金			
麦粉	三百俵	五日	四六五〇七之
河内屋へ賣代掛			
麦粉	二百五十俵		四七、〇七之
			六、〇〇〇
			一九五〇
			一七五〇

和泉屋へ賣代三十日限同人手形請取	七日				
麦粉	百又十俵	四七之			一、〇五〇
大坂屋ヨリ買代六十日限此方手形渡ス	十日				
小麦	又百俵	四一之			五〇〇
伊賀屋へ賣代現金	十二日				
小麦	百俵	四一、二五セ之	一二五〇〇		
麦粉	百俵	六、七五セ	六七五〇〇		八〇〇
帳面筆紙代現金拂	十四日				五〇
伊勢屋ヨリ買代現金	十五日				
麦粉	三百俵	四五之			一、五〇〇

志摩屋へ賣代現金	十七日				
麦粉	百俵	四六之			六〇〇
尾張屋ヨリ買代拭	十八日				
大麦	千俵	七五セ之			七五〇
三河屋へ賣代五日限同人手形請取	二十日				
大麦	又百俵	八〇セ之	四〇〇〇〇		
小麦	百俵	四一、一五セ	一一五〇〇		五一五
遠州屋へ賣代現金	二十二日				
麦粉	四百俵	四六、〇〇	二、四〇〇〇〇		
小麦	三百俵	一、一〇セ	三三〇〇〇		二、七三〇

駿河屋ヨリ買代拭		二十五日	
麦粉	千又百俵	四五、五〇セ之	八、二五〇
甲州屋へ賣代拭		二十七日	
麦粉	千俵	四六、〇〇セ之	六、〇〇〇
三河屋ノ手形引替正金請取		二十八日	
伊豆屋へ賣代現金		二十九日	五十五
麦粉	又百俵	四五、七五セ之 二、八七五〇〇	
大麦	又百俵	九〇セ之 四五〇〇〇	三、三二五
書役給料五十圓家賃五十圓拂		三十日	一〇〇
			三六、三八五

第一式

明治六年

清書帳

一月一日

一丁	麦粉	借	六、〇〇〇
二丁	山城屋へ		
	麦粉元代六千圓第三則ニ従テ借ナリ此方ハ山城屋へ借ナルユヱ山城屋ハ第六則ニ従テ貸ナリ		
	二日		
三丁	正金	借	一、九五〇
一丁	麦粉へ		
			六、〇〇〇
			一、九五〇

借 貸

正金ハ之ヲ請取タルユヱ第二則ニ従テ借ナリ麦粉ハ之ヲ賣テ金ヲ得タルユヱ第三則ニ従ヒ其賣上代ヲ以テ貸ナリ

五日

四丁 河内屋 借 一、七五〇

一丁 麦粉へ 一、七五〇

河内屋ハ此方ヘ引負ト為リタルユヱ第六則ニ従テ借ナリ

麦粉ハ第三則ニ従ヒ賣上代ヲ以テ貸ナリ

七日

四丁 請取口手形 借 一、〇五〇

一丁 麦粉へ 一、〇五〇

請取口手形ハ四則ニ従テ借麦粉ハ三則ニ従テ貸

十日

五丁 小麦 借 五〇〇

六丁 拂口手形へ 五〇〇

小麦ハ三則ニ従テ借拂口手形ハ五則ニ従テ貸

十二日

三丁 正金 借 八〇〇

五丁 小麦へ 一二五

一丁 麦粉へ 六七五

正金ハ二則ニ従テ借小麦ト麦粉ハ三則ニ従テ貸

六丁	雜費	十四日	借	五〇
三丁	雜費ハ七則ニ従テ借。正金ハ二則ニ従テ貸		正金へ	五〇
一丁	麦粉	十五日	借	一、五〇〇
三丁	麦粉ハ三則ニ従テ借。正金ハ二則ニ従テ貸		正金へ	一、五〇〇
三丁	正金	十七日	借	六〇〇
二丁	麦粉へ		借	六〇〇

	正金ハ二則ニ従テ借。麦粉ハ三則ニ従テ貸			
七丁	大麦	十八日	借	七五〇
七丁	大麦ハ三則ニ従テ借。尾張屋ハ六則ニ従テ貸		尾張屋へ	七五〇
四丁	請取口手形	二十日	借	五一五
七丁			大麦へ	四〇〇
五丁	請取口手形ハ四則ニ従テ借。大麦ト小麦ハ三則ニ従テ貸		小麦へ	一一五

三丁	正金		二十二日		
二丁		麦粉へ		借	
五丁		小麦へ			
	正金ハ二則ニ従テ借、麦粉ト小麦ハ三則ニ従テ貸				
一丁	麦粉		二十五日		
八丁		駿河屋へ		借	
	麦粉ハ三則ニ従テ借、駿河屋ハ六則ニ従テ貸				
八丁	甲州屋		二十七日		
				借	

二丁		麦粉へ		借	
	甲州屋ハ六則ニ従テ借、麦粉ハ三則ニ従テ貸				
三丁	正金		二十八日		
				借	
四丁		請取口手形へ			
	正金ハ二則ニ従テ借、請取口手形ハ四則ニ従テ貸				
三丁	正金		二十九日		
二丁		麦粉へ		借	
七丁		大麦へ			

第一式

大帳

借　元代

麦粉

賣上代

貸

明治六	一月	ク	ク
一日	十五	廿五	
山城屋へ	正金へ	駿河屋へ	
一丁	四丁	六丁	
六、〇〇〇	一、五〇〇	八、二五〇	

明治六	一月	ク	ク
二日	五日	七日	十二
正金ニテ	河内屋ニテ	請取呈形ニテ	正金ニテ
一丁	二丁	二丁	三丁
一、九五〇	一、七五〇	一、〇五〇	六七五

正金ハ二則ニ従テ借、麦粉ト大麦ハ三則ニ

従テ貸

三十日

六丁　雑費　借

三丁　雑費ハ七則ニ従テ借正金ハ二則ニ従テ貸　正金へ

三六、三八五	一〇〇
三六、三八五	一〇〇

借

山城屋へ向テ此方ノ勘定

山城屋

此方へ向テ山城屋ノ勘定

貸

明治六				
一月	七十	正金ニテ	丁四	六、〇〇〇
ク	廿二	同	丁六	二、四〇〇
ク	廿七	甲州屋ニテ	丁六	六、〇〇〇
ク	九廿	正金ニテ	丁七	二、八七五
		一七、三〇〇		

賣上代　一七、三〇〇
元代　一五、七五〇
賣徳　一、五五〇

山城屋へ此方ノ借　六、〇〇〇

明治六				
一月	一日	麦粉ニテ	丁一	六、〇〇〇

借

請取入金

正金

を拂出金

貸

明治六				
一月	二日	麦粉へ	丁一	一、九五〇
ク	十二	小麦ニ麦粉へ	丁三	八〇〇
ク	十七	麦粉へ	丁四	六〇〇
ク	廿二	麦粉ニ小麦へ	丁六	二、七三〇
ク	廿八	請取ロ手形へ	丁七	五一五
ク	九廿	麦粉ニ大麦へ	丁七	三、三二五
		九、九二〇		

明治六				
一月	十四	雑費ニテ	丁四	五〇
ク	五十	麦粉ニテ	丁四	一、五〇〇
ク	十三	雑費ニテ	丁八	一〇〇

入金　一、六五〇
出金　九、九二〇
有金　八、二七〇　一、六五〇

借　河内屋

河内屋へ向テ此方ノ勘定

明治六年一月五日　麦粉并ニ大麦ヘ　丁二　二、七五、〇

此方へ河内屋ノ借　一、七五、〇

貸

借　請取手形

他ノ手形請取高

明治六年一月七日　麦粉ヘ　一、〇五、〇
ク十二日　大麦并ニ小麦ヘ　五一五
一、五六五　丁二　丁五

他ノ手形引替高

明治六年一月廿八日　正金ニテ　丁七　五一五

手形請取高　一、五六五
同引替高　五一五
同有高　一、〇五、〇

貸

借　元代

明治六年一月十日　掛口手形ヘ　丁三

賣上代
元代
賣徳

五七、〇
五、〇、〇
七、〇

五、〇、〇

小麦

賣上代

明治六年一月廿二日　正金ニテ　丁三　一二五
ク十二日　請取手形ニテ　丁五　一一五
ク廿二日　正金ニテ　丁六　三三、〇

五七、〇

貸

借

此方ノ手形引替高

拂口手形

此方ノ手形仕出高

貸

拂残ノ手形 五〇〇

明治六 一月十日 小麦ニテ 三丁 五〇〇

借

雑費拂高

雑費

貸

明治六 一月十四 正金ヘ 四丁 五〇

ク 三十 同 八丁 一〇〇

雑費拂高 一五〇

借

元代

大麦

賣上代

貸

明治六 一月十八 尾張屋ヘ 五丁 七五〇

賣上代 八五〇

元代 七五〇

賣徳 一〇〇

明治六 一月二十 請取呈形ニテ 五丁 四〇〇

ク 廿九 正金ニテ 七丁 四五〇

八五〇

借

尾張屋ヘ向テ此方ノ勘定

尾張屋

此方ヘ向テ尾張屋ノ勘定

貸

尾張屋ヘ此方ノ借 七五〇

明治六 一月十八 大麦ニテ 五丁 七五〇

借 駿河屋 貸

駿河屋ヘ向テ此方ノ勘定

此方ヘ向テ駿河屋ノ勘定

駿河やヘ此方ノ借	八、二五〇
明治六 一月廿五 麦粉ニテ	六丁 八、二五〇

借 甲州屋 貸

甲州屋ヘ向テ此方ノ勘定

此方ヘ向テ甲州屋ノ勘定

明治六 一月廿七 麦粉ヘ	七丁 六、〇〇〇
此方ヘ甲州やノ借	六、〇〇〇

〔譯者註〕右ノ例ニ示ス大帳ノ勘定貸ノ方ノ文ニ何々ニテト記セリ譬ヘバ麥粉ノ勘定ノ處ニ正金ニテ河内屋ニテトアリ此ニテノ文字少シ不都合ノヤウナレ氏原文ノマヽニ譯シタルナリ今其意味ヲ委シク云ヘバ正金ノタメニテ河内屋ノタメニテト云フ義ナリ毎度註解ニモ云ヘル如ク帳合ノ借貸ハ其坐ニ記セル人欵物ノ有様ヲ示スモノナルコヱコヽニテ麥粉ガ正金ニテ貸トハ一月二日大和屋ヘ麥粉ヲ賣リ其代ヲ現金ニテ請取タルユヱ麥粉ハ大帳ノ面ニ於テ此正金ノタメニ貸ノ有様ニ為リタリト云フ義ナリ河内屋ニテ貸トハ

同月五日河内屋ヘ麥粉ヲ賣リ其代金ヲ直ニ請取ラズシテ同人ヘ借シタルユヱ麥粉ハ大帳ノ面ニテ此河内屋ノタメニ貸ノ有様ニ為リタリト云フ義ナリ

又大帳ノ勘定ニ細字ニテ差引ヲ記スヿ譬ヘバ第一箇条麥粉ノ勘定ノ下段ニ一七、三〇〇トアルハ賣上代合シテ一万七千三百圓ト云フヿヲ假ニ記シタルモノナリ

又コレヲ上段ニ出シテ其高ノ内ヨリ一五、七五〇ヲ引タルハ賣上代ヨリ元代ヲ引キ残ノ賣徳ヲ示シタルモノナリ此差引ハ本文ノ端書ニモ云ヘル如ク何レモ假ニ記スモノユヱ實地ニハ「ペンシル」ヲ用ヒテ可ナリ

惣勘定

右ノ諸帳面ニ由テコレヲ求レバ一月ノ間ニ取引セシ商賣ノ有様ヲ明ニシ出来掛リノ勘定ノマヽニテ其始末ヲ見ル可シ即チ大帳ノ勘定ハ左ノ如シ

平均之改

大帳ノ面ヲ示ス

借			貸
一五、七五〇	元代	麥粉 賣上代	一七、三〇〇
	山城屋ヘ向テ此方ノ勘定	山城屋 此方ヘ向テ山城屋ノ勘定	六、〇〇〇
九九、二〇	請取入金	正金 差拂出金	一、六五〇
一、七五〇	河内やヘ向テ此方ノ勘定	河内屋 此方ヘ向テ河内屋ノ勘定	

一五六五	他ノ手形請取ル	請取口手形	他ノ手形引替高	五一五
五〇〇	元代	小麦	賣上代	五七〇
	此方ノ手形引替ル	拂口手形	此方ノ手形仕出ル	五〇〇
一五〇	雜費拂ル	雜費		
七五〇	元代	大麦	賣上代	八五〇
	尾ヘ向テ此方ノ勘定	尾張屋	此方ヘ向テ尾ノ勘定	七五〇
	後ヘ向テ此方ノ勘定	後河屋	此方ヘ向テ後ノ勘定	八二五〇
六〇〇〇	甲ヘ向テ此方ノ勘定	甲州屋	此方ヘ向テ甲ノ勘定	
三六、二八五	平等付合			三六、三八五

右ノ書付ヲ名ケテ平均ノ改ト云フ即チ此書付ノ趣意ハ大帳ノ面ニアル借ノ高ト貸ノ高ト互ニ平均シテ相違ナキヤ否ヲ改メ糺スタメノモノナルユヱ斯ク名ケタルナリ抑モ大帳ノ面ニテ借貸ノ高ノ數ハ互ニ平均スルモ其實ノ勘定ニハ隨分誤モアル可キモノナレバ此平均ノ改ヲ以テ必ズ大帳ノ勘定ニ間違ナシトノ證據ト爲ス可キニハ非ラザレ𪜈先ツコノ書付ノ法ニ據レバ大概ノ事ニハ誤ナキヲ得ベシ即チ此書付ノ〆高ヲ見ルニ其高正シク清書帳ノ〆高ニ符合セリ若シモ清書帳ヲ大帳ヘ寫ストキニ誤アレバコノ〆高互ニ符合ス可キ筈ナシ又清書帳

ノ〆高ハ日記帳ノ〆高ニ符合スルユエ取引ノ元帳タル日記帳ヨリ清書ヲ経テ大帳ニ至ルマデノ間ニ誤ナカリシト知ル可キナリ此勘定ニ於テ誤ノ出来ベキ道ハ唯ニ箇条アルノミ即チ清書帳ヲ扣ルト正シカラザル歟或ハ清書帳ヨリ大帳ヘ寫スキニ誤ルトアル歟コノ二箇条ヨリ外ナラザルナリ

此誤ヲ防グタメ右ニ記セル平均改ノ書付ニハ大帳ノ〆高ヲ示スニ全ク其惣數ヲ記シタリ若シ日記帳清書帳ニ拘ハラズシテ唯大帳ノ平均ノミヲ見ントスルニハ其惣〆ノ差ノミヲ記スルト左ノ例ノ如クシテ可ナリ

平均之改

借貸ノ差ヲ示ス

				借		貸	
一	麦粉	利益	正味ノ賣徳			一、五五。	
二	山城屋	拂口	同人ヘ此方ノ借			六、〇〇〇。	
三	正金	元手	有金	八、二七。			
四	河内屋	元手	此方ヘ同人ノ借	一、七五。			
五	請取ヒ手形	元手	有高	一、〇五。			
六	小麦	利益	正味ノ賣徳			七。	
七	拂ヒ手形	拂口	引替未済ノ此方ノ手形			五〇〇	

八	雑費	雑費拂ヲ	損亡		
九	大麦	賣徳	利益		一五。
十	尾張屋	同人ヘ以方ノ借	拂口		
十一	駿河屋	同人ヘ以方ノ借	拂口		
十二	甲州屋	以方ヘ同人ノ借	元手	六、〇〇〇。	
					一七、二二。
					一七、二二。

平等付合

此平均改ノ書付ニ於テモ借ト貸トノ平均ヲ示スヿ前例ノ書付ニ異ナルヿナシ唯コノ例ノ書付ニハ同ジ高ノ借ヲ以テ貸ヲ消シ又貸ヲ以テ借ヲ消シタルユヱ大ニ金ノ高ヲ減シタルノミ此二様ノ書法各便利ナル處アリテ何レヲヨシトシ何レヲアシトス可ラズ或ハ法ヲ改メテ此両様ノ便利ヲ一書ニ兼備セシメテ最モ都合ヨキヿアリ其例ハ後ニ示ス可シ

借貸ノ差ヲ示ス平均ノ改ニ於テハ大帳ノ勘定ノ一筆毎ニ或ハ元手或ハ拂口或ハ利益或ハ損亡必ズコノ四箇条ノ始末ノ一ヲ見ハスガ故ニヨク心ヲ用ヒ其条々ノ順序種類ヲ誤ラズシテ明ニ書キ記ルスヿハ本式帳合ノ善ヲ盡シ美ヲ盡シタル學論ノソヤ正味ノ損益ハ正シク一義ヲ見ル可シ其一義トハ何ノ始末ノ一ヲ見ハスガ故ニヨク心ヲ用ヒ其条々ノ順序種類ヲ誤ラズシテ明ニ書キ記ルスヿハ本式帳合ノ善ヲ盡シ美ヲ盡シタル學論ノソヤ正味ノ損益ハ正シク身代ノ増減ニ符合スルトノ事

實即ナリ是ナリ左ニ又惣勘定ノ書付ヲ二様ニ示スガ故ニ學者ハ宜ク丁寧ニコレヲ稽古スル可シ

元手ト拂口

元手

三	正金	有金	八、二七、〇〇〇
四	河内屋	以方ヘ同人ノ借	一、七五、〇〇〇
五	請取口手形	有高	一、〇五、〇〇〇
十二	甲州屋	以方ヘ同人ノ借	六、〇〇〇、〇〇〇
			一七、〇七、〇

拂口

二	山城屋	同人ヘ以方ノ借	六、〇〇〇、〇〇〇
七	拂口手形	引替ニ済以方ノ手形	五、〇〇〇、〇〇〇
十	尾張屋	同人ヘ以方ノ借	七五、〇〇〇
十一	駿河屋	同人ヘ以方ノ借	八、二五、〇〇〇
			一五、五、〇〇〇
		現在ノ身代	一、五七、〇

利益ト損亡

		利益			損亡	
一	麦粉	正味ノ賣總	一、五五〇、〇〇〇			
六	小麦	ク	七〇、〇〇〇			
九	大麦	ク	一〇〇、〇〇〇			
八	雑費	雑費拂高			一、七二〇	
		正味ノ利益			一五〇	
					一、五七〇	

右二様ノ書付ニ記セル番号ヲ前例平均ノ改ニアル番号ト比較シナバ大帳ノ勘定ハ一箇条毎ニ記シテ洩ラスナキヲ見ル可ク又其箇条ノ本趣意ヲモ明ニ知ル可キナリ殊ニ末段ノ利益ト損亡トノ勘定書ヲ見レバ本式ノ帳合ニハ一種ノ便利アルトノ次第ヲ合点シテ明ニ其證拠ヲ握ル可シ或ハ事ノ意味ヲ深ク考ヘズシテ商賣ノ利益ハ唯身代ノ増シタルナリト一概ニコレヲ云ヘバ亦其言ノ通リニテ相違モナキコナレ氏斯ク粗畧ニ物事ヲ論ジテハ未タ帳合ノ趣意ヲ解シタル者ト云フ可ラズ改ニ本式ノ法則ニ従テ大帳ノ

面ヲ證據ト為シ惣勘定ノ書付ヲ作テ損益ノ有様ヲ示ス
ヿ右ノ例ノ如クシテ事ノ證據始テ實正明白ト為リコレ
ヲ學問ノ体裁ト名ク可キナリ
正味ノ利益ヲ知ラントナラバ假ニ元入ノ金ナクシテ商
賣ヲ始メタルヿノ有様ヲ考ヘ見ル可シ現在正味ノ身代
ハ必ズ正味ノ利益ニ同ジカル可シ
右ノ条々ニ解キ明ニセシ次第ヲ推シテ左ノ定則ヲ得ル
ナリ

定則

第一則　正味ノ利益ヲ知ラントニハ利益ノ惣高ノ内ヨ
リ損亡ノ惣高ヲ引ク欤又ハ商賣ノ終ニ現在
スル元手ノ内ヨリ商賣ノ初ニ用ヒタル元手
ヲ引ク可シ

第二則　現在ノ身代ヲ知ラントニハ元手ノ内ヨリ拂ロ
ヲ引ク欤又ハ正味ノ利益ヲ正味ノ元手ニ加
フ可シ

活用ノ例

第一例　一助ナル者左ノ元入ヲ以テ商賣ヲ始メタリ即
チ有金三百圓ヾバンクヘ預ケ金四千圓ヾ有品五千圓手形ニ

千五百圓アリ此元入ヲ以テ利益ト損亡トノ有様充ノ如シ即チ商賣品ニテ利益千五百七十五圓景氣物積出シニ付テ利益五千圓雑費ニテ損亡三百圓貸シタヲレニテ損亡千二百圓○右ノ通リニテ正味ノ利益ハ何程ナルヤ商賣ノ終ニ於テ元手ハ何程ナルヤ

答曰正味ノ利益五千零七十五圓商賣ノ終ニ於テ元手一万六千八百七十五圓

第二例　二助ナル者正金三千七百九十五圓八十三銭ノ元入ヲ以テ商賣ヲ始メ一年ノ終ニ至テ其元手ト拂口トノ有様充ノ如シ即チ元手ノ高ハ有品五千七百二十五圓有金三千八百七十五圓九十銭手形千五百圓他人ヘ貸シノ高八千五百圓ナリ拂口ノ高ハ拂口ノ手形八千圓他人ヨリ借リノ高三千五百圓ナリ○右ノ通リニテ一年ノ終ニ至リ同人ノ身代ハ何程ナルヤ其利ヲ得タル高ハ何程ナルヤ

答曰現在ノ身代八千一百圓零々九十銭利益ノ高四千三百零五圓零七銭

第三例　三助ナル者全ク元入ノ金ナクシテ商賣ヲ始メ一年ノ終ニ於テ大帳ヲ見ルニ其借貸ノ平均充ノ書付ノ如シ

	借	貸
正金	四、五〇〇	
品物		一、五〇〇
山城屋		一、二〇〇
大和屋		一、九〇〇
河内屋		
和泉屋		
請取口銭		一七五
拂口銭	一七五	
雑費	九、二七五	九、二七五
	一、五七五	
	四、七二五	
	一、一〇〇	
	一、八七五	
	九、二七五	

右ノ書付ノ通リニテ正味ノ利益ハ何程ナルヤ一年ノ終ニ於テ元手ハ何程ナルヤ一年ノ後ニ至リ其第四例左ノ書付ハ商賣ヲ始テヨリ一年ノ後ニ至リ其有様ヲ示ス平均ノ改ナリ此平均ノ改ニ従ヘバ商賣ノ利益ト損亡ト元手ト拂口トノ區別如何

	借	貸
正金	一〇、三九七	
品物	五、〇〇〇	
地面建物	一〇、〇〇〇	
大坂屋	四、〇〇〇	
		六、七九二八四
		五、六二〇
		一二、〇〇〇
		二、五〇〇

伊賀屋			
雑費			八、〇〇〇
請取口銭			一、二〇〇
拂口銭			七、〇〇〇
伊勢屋		五〇〇	
志摩屋	一、五〇〇		
	四七、五九七		九、七五〇
			五、〇〇〇
			一、五〇〇
		三、四三四	
	四七、五九七	一、〇〇〇	
			一六〇

右ノ問題並ニコノ次ニ示ス所ノ試業ニ答フルニハ三十九丁ニ記シタル惣勘定ノ体裁ニ従テ其書付ヲ作ル可キナリ

替古人ノ試業第一番

覽書

一月一日　元ハナクシテ商賣ヲ始メ山城屋ヨリ高五千七百五十圓ノ品物買取リ代金差引〇大和屋ヘ大巾羅紗一尺五圓替ニテ一丈錦織一尺八圓替ニテ三尺賣渡シ代現金㊞筆墨紙並ニ郵便切手代十圓拂

同二日　河内屋ヘ七圓五十錢ニテ羅紗羽織地一着ニ圓ニテ同飾裝束一揃裏地木綿一尺十二錢替ニテ五丈賣渡シ代金差引

同三日　和泉屋ヘ長靴一足三圓五十錢替ニテ一箱二十

四足フラ子ル一尺五十銭替ニテ二丈五尺賣渡シ代金ハ
六十日限同人ノ手形受取○大坂屋へ十圓ニテメリヤス
一箱形付更紗一尺十銭替ニテ七丈五尺賣渡シ代現金
同五日　山城屋へ差引金五十圓拂
同七日　伊賀屋へ三千七百圓ニテ綿羅紗並ニ襦絆地木
綿ノ送狀賣渡シ代現金三千圓受取リ殘金ハ差引勘定ナ
リ（註）
同九日　店賃百圓拂○河内屋ヨリ差引濟切ニテ金一ー
圓受取
同十日　伊勢屋へ大巾羅紗一尺三圓七十五銭替ニテ二
丈呉絽一尺一圓替ニテ五丈賣渡シ代金差引
同十二日　志摩屋へ女物長靴一足二圓替ニテ十二足同
半靴一足一圓二十五銭替ニテ一箱二十四足男物長靴一
足四圓替ニテ三箱三十六足賣渡シ代現金
同十四日　書役給料五十圓拂○尾張屋へ襦絆一枚二圓
替ニテ一組十二枚絹呉絽一尺二十銭替ニテ一巻七丈五
尺裏木綿一尺十銭替ニテ一巻五丈賣渡シ代現金
同十五日　三河屋ヨリ二千五百圓ニテ大巾羅紗ノ送狀
買取リ代金ハ三箇月限此方ノ手形渡ス○遠州屋へ大巾
羅紗一尺三圓五十銭替ニテ二巻五丈更紗一尺十二銭替

ニテ二丈五尺賣渡シ代現金
同十六日　山城屋ヘ差引金二千圓拂〇駿河屋ヘ裏木綿
一尺十五錢替ニテ十五丈〇大巾羅紗一尺四圓替ニテ五丈
賣渡シ代金差引
同十八日　伊勢屋ヨリ差引濟切ニテ金一一圓受取〇甲
州屋ヘ女物ゴム付襦絆一枚二圓替ニテ三組三十六枚〇男
物襦絆一枚二圓二十五錢替ニテ四組四十八枚賣渡シ代
現金
同二十日　伊豆屋ヘ洒麻布一尺七十五錢替ニテ一卷五
丈〇金巾一尺十錢替ニテ三卷十五丈〇裏木綿一尺十四錢替

ニテ五卷二十五丈賣渡シ代現金
同二十一日　相摸屋ヘ女物靴一足二圓替ニテ二箱四十
八足〇子供靴一足一圓五十錢替ニテ五箱六十足賣渡シ代
金差引
同二十二日　小雜用十五圓五十錢拂
同二十五日　伊賀屋ヨリ差引金三百五十圓受取〇山城
屋ヘ差引金五百圓拂〇武藏屋ヘ大巾羅紗一尺四圓替ニ
テ五丈〇呉絽一尺一圓二十五錢替ニテ七丈五尺賣渡シ代
金差引
同二十七日　安房屋ヘ白紗一尺二十五錢替ニテ三卷六

丈賣綫一尺十一錢替ニテ三巻十二丈賣渡シ代現金㊀上
總屋へ極上フラ子ル一尺一圓二十五錢替ニテ四丈更紗
一尺十錢替ニテ八巻二十五丈賣渡シ代金ハ三十日限同
人ノ手形受取
同三十日下總屋へ三千四百五十圓ニテ有品残ラズ仕
入帳ノ通リニ賣拂ヒ代現金㊀山城屋へ差引濟切ニテ三
千二百圓拂

平均之改

大帳ノ平均ノ改ハ前条ノ取引ニ於テ其始末ヲ明ニス
ル大帳ノ有様ヲ示スモノナリ

學者コノ平均改ノ書付ニ由テ惣勘定ヲ作ルニハ第一式
ニ示シタル惣勘定ノ法ニ従フ可シ

面ヲ示ス

	借		貸	
山城屋	五、七五。		五、七五。	
品物	八、二五。		八、九七一	四五
正金	七、七四七。		五、九二五。	
雑費	一七五。			
河内屋	一五五。			一五。
請取手形	一七一五。			

伊賀屋					七〇〇		三五〇
伊勢屋					一二五		一二五
拂口手形							二、五〇〇
駿河屋				二二二	五〇		
相摸屋				一八六			
武藏屋				二九三	七五		
	二三、六三七	四五				二三、六三七	四五

〔譯者註〕覺書七日ノ取引ニ送状ヲ賣渡ストハ未タ品ハ渡サヾルモ書付ヲ以テ賣渡シノ約条ヲ為スナリ

帳合之法卷之三終

福
19-6
著作